相互行為としての社会化

—しつけの実態調査から—

市川孝一

Socialization Process as Interaction

—A Survey on Interaction between Parents and Children in Childrearing Practice —

Koichi Ichikawa

This article attempts to report some of results of the survey on childrearing practice.

General Description of the survey

1. Study purpose : socialization process, specificaly interaction between parents and children as is in childrearing practice.
2. Respondents : 271 elementary school (5th year) and 208 juniorhighschool students, and their 952 fathers and mothers in Musashino City and Nagano City.
3. Method : questionaire survey. Children respond to the questionaire in classrooms and carried another questionaire back home for their parents.

Major findings

1. Ideal image of child held by parents and children's own image of themselves compared: The most frequent one is "cheerful and bright child" for both parents and children. Significant gap between images held by parents and those held by children is in answers, such as "considerate child" "independent child" (by parents), "intelligent child" "popular child among class-mates" (by children).
2. Ideal future image of child : The most frequent one is "happy family life" for both parents and children. Significant gap between images of them is in answers, such as "fulfillment of one's potentiality" (by parents), "well-off life" (by children).
3. Emphasis of childraring practice : Mothers lay emphasis on "manners and etiquette" "feminine attitude" " helping housework" for girls, consequently reproducing stereotypical "feminity". On the contrary fathers stress "study hard" for boys.

はじめに

本稿は，1988年秋に社会化研究会* が実施した「しつけの実態調査」について，その概要と結果の一部を報告するものである．

調査の目的

「親子の断絶」「父親の不在」「母親の過保護と過干渉」等々，家庭におけるしつけを中心とした社会化に含まれる問題点は繰り返し指摘されてきている．今までに行われた「しつけ」や「社会化」に関する実態調査も少なくない．しかし，親と子どもの相互行為，特に両者の「社会化観」，話し合いと理解関係，また実際の叱り方・ほめ方・慰め方にかかわるズレの実態調査はほとんど行われてきていないと言っていただろう．

そこで本調査では，社会化特にしつけ——叱り方・ほめ方・慰め方——をめぐる親子の相互認識や相互行為のズレ・くいちがい・ギャップといったものを把握することを目指した．また，親と子というダイアデックな把握にとどまらず，そこに父親・母親・子ども（男女）といったトライアディック（三対的）な視点の導入を試みた．これによって，しつけに不在がちな父親，しつけの主たる担い手であって女性としても自立しつつある母親，競争・選抜社会の重圧に巻き込まれている子どもたちという現代的構図の一端がとらえられるのではないかと考えたのである．

調査の対象と方法

上記の目的に基いて作成した質問紙を用いて，長野県長野市および東京都武蔵野市の小学校5年生・中学校2年生の児童・生徒およびその父母を対象に調査を行った．児童・生徒に対しては，各教室で「集合調査」を行ない，終了後ただちに回収した．父母に対しては，児童・生徒が父母用の質問紙を持ち帰り，記入後再び児童・生徒が学校に持参し回収するという「留置法」をとった．

≪回答者の構成≫

(1) 子ども（479名）
　小学校5年生
　　長野市　150（男子78・女子72）
　　武蔵野市　121（男子56・女子65）
　中学校2年生
　　長野市　106（男子56・女子50）
　　武蔵野市　102（男子55・女子47）

(2) 親（952名）
　　長野市　509（父253・母256）
　　武蔵野市　443（父221・母222）

〔調査時期〕　長野市：1988.9.10～12
　　武蔵野市：1988.9.24～26

主な調査内容

(1) 親の産育意識
(2) 子どもの理想像
　「一人前」になるとは
　子どもへの期待像・子どもの期待像
(3) 親子関係観
　親と子どもの関係に対する態度
　親子のコミュニケーション関係
(4) しつけ
　しつけの担い手
　しつけの外注化
　しつけの伝承
　しつけの重点
　叱り方
(5) 叱り言葉・ほめ言葉・慰めことば
(6) 親子の相互行為と状況の定義の相互性
(7) 親が子に伝えておきたいこと

結果と考察

本稿では，全体の結果のうち，筆者の担当部分を中心にその一部のみを報告する．

＜子どもへの期待像・子どもの期待像＞

親が子どもに「どういう子どもであってほしいか」，また，子ども自身が「どういう子どもでいたいか」を問う質問（PQ2,CQ1）に対する回答（複数回答）の単純集計結果は以下の通りである．

	親	子ども
1．勉強がよくできる子ども	18.4%	35.5%
2．素直な子ども	56.5	48.9
3．仲間に人気のある子ども	23.1	33.8
4．親の言うことをよく聞く子ども	11.3	25.4
5．礼儀正しい子ども	40.9	38.8
6．勤勉な子ども	20.0	22.5
7．明るく元気な子ども	71.4	72.7
8．人に迷惑をかけない子ども	63.0	38.6
9．やさしい子ども	44.0	54.7
10．人に頼らず自分でやる子ども	58.5	39.0

親，子どもともに圧倒的に高い数字を示したのが，「明るく元気な子ども」である．「礼儀正しい子ども」や「勤勉な子ども」も親と子どもで差がない．

ここでは親子のズレに注目したい．差の大きいもので，親が子どもを大きく上回っているのが，「人に迷惑をかけない子ども」「人に頼らず自分でやる子ども」である．逆に，子どもが親を大きく上回っているものが，「勉強がよくできる子ども」「親の言うことをよく聞く子ども」「仲間に人気のある子ども」「やさしい子ども」である．（いずれも，カイ自乗検定，p<.001で有意差あり．以下同様．「素直な子ども」はp<.01の有意水準で親が子を上回っている．表－1参照）

表 － 1

子どもへの期待像・子どもの期待像			CQ 1
項目	親		子ども %
1	18.4	<***	35.5
2	56.5	>**	48.9
3	23.1	<***	33.8
4	11.3	<***	25.4
5	40.9		38.8
6	20.0		22.5
7	71.4		72.7
8	63.0	>***	38.6
9	44.0	<***	54.7
10	58.5	>***	39.0

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 2

子どもへの期待像（父親 対 母親）			PQ 2
項目	父 親		母 親 %
1	16.2		20.5
2	51.9	<**	61.1
3	21.5		24.7
4	12.0		10.7
5	38.6		43.1
6	16.7	<*	23.1
7	66.5	<***	76.4
8	52.1	<***	73.8
9	32.5	<***	55.4
10	48.3	<***	68.6

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

親の方は，対人関係をスムーズに行っていく子どもや自立を強調するのに対し，子どもの方は，まるで親の期待に過剰に反応し，それを先取りしているかのように「勉強がよくできる子ども」や「親の言うことをよく聞く子ども」をあげているところがいじらしくもある．「仲間に人気のある子ども」は，いかにも今の子どもの回答らしく，時代を反映していると言えようか．親の願望として，「素直な子ども」も依然として根強いことも確認できる．

親の場合，地域差，子どもの学年差，性差などで大きな違いはあまりない．大きな差のあるのは，「明るく元気な子ども」に見られる子どもの学年差ぐらいのものである．（小5・76.1%対中2・65.4%，p<.001）その他は，「親の言うことを聞く子ども」「礼儀正しい子ども」で学年差に，「勤勉な子ども」で男女差にそれぞれ小さな違いが見られる程度である．（いずれも，p<.05で有意差．表－3，4参照）

それに対し，子ども自身の期待像は地域差はほとんどないものの，性差，学年差の大きいものも見られる．例えば，「勤勉な子ども」は，小学生と中学生の間で大きく数値を下げ（34.3%→7.2%），「親の言うことをよく聞く子ども」（31.7%→17.2%），「明るく元気な子ども」（80.4%→62.5%）も同じ動きを示している．（いずれも，p<.001で有意差）逆に数

表 － 3

親の子どもへの期待像（子どもの学年差） PQ 2			
項目	小 5		中 2 %
1	17.2		20.0
2	56.3		56.7
3	23.1		23.1
4	9.1	<*	14.2
5	37.9	<*	44.7
6	18.5		21.9
7	76.1	>***	65.4
8	63.1		63.0
9	46.5		40.9
10	57.1		60.3

x^2検定 *** p<.001 ** p<.01 * p<.05

表 － 4

親の子どもへの期待像（子どもの性差） PQ 2			
項目	男 子		女 子 %
1	20.3		16.3
2	54.2		58.9
3	24.8		21.3
4	12.7		9.9
5	40.2		41.5
6	23.2	>*	16.6
7	73.1		69.7
8	63.4		62.6
9	41.5		46.7
10	62.0		54.8

x^2検定 *** p<.001 ** p<.01 * p<.05

表 － 5

子どもの期待像（学 年 差） CQ 1			
項目	小 5		中 2 %
1	30.6	<**	41.8
2	48.4		49.5
3	32.5		35.5
4	31.7	>***	17.2
5	36.9		41.1
6	34.3	>***	7.2
7	80.4	>***	62.5
8	35.1	<*	43.3
9	52.8		57.2
10	40.2		37.5

x^2検定 *** p<.001 ** p<.01 * p<.05

表 － 6

子どもの期待像（性 差） CQ 1			
項目	男 子		女 子 %
1	37.2		33.8
2	39.6	<***	58.6
3	38.0	>*	29.5
4	23.3		27.7
5	36.7		41.0
6	20.4		24.8
7	69.4		76.1
8	41.2		35.9
9	44.5	<***	65.4
10	39.6		38.5

x^2検定 *** p<.001 ** p<.01 * p<.05

値を上げているのが，「勉強がよくできる子ども」（30.6%→41.8%，p<.01で有意差）である．「人に迷惑をかけない子ども」も差は小さいが同じ動きを示す．（p<.05で有意差．以上表－5参照）

中学生ともなると，「明るく元気」とばかりも言っていられなくなるといったところだろう．性差で言うと，「素直な子ども」（男子39.6%・女子58.6%），「やさしい子ども」（44.5%・65.4%）に顕著な男女差がみられ（いずれもp<.001で有意差あり），"すなおでやさしい" という "女の子らしさ" のステレオタイプ的な特性を女性徒たちが自らの期待像として選んでいることがわかる．「仲間に人気のある子ども」は，男子の方がやや女子を上回っている（38.0%対29.5%，p<.05）が，これだけで，男子生徒の方が他人の評価を気にしていると断定できるような差ではない．（以上表－6参照）

<子どもの将来の理想像>

親が子どもに対して「将来どのような人になってほしいか」，また子ども自身が「将来どのような人になりたいか」の問い（PQ3, CQ2）に対する回答（複数回答）は以下の通りである．

	親	子ども
1．親孝行な人	15.8%	48.4%
2．平凡な人並みの生活をする人	26.6	19.6
3．広く社会のためにつくす人	25.0	23.8

4．自分の個性や能力をあらわすような人	61.0	42.0
5．社会的に高い地位につく人	2.2	11.1
6．家をさかえさせ家の名をあげる人	1.6	6.5
7．経済的に豊かな生活をする人	12.9	22.6
8．しあわせな家庭生活を送る人	71.0	73.5

親の回答も子どもの回答も「しあわせな家庭生活を送る人」に集中した．その圧倒的な数値の大きさには驚くばかりである．家庭の崩壊や家族の解体が言われる中にあって，こういう数字はどのように解釈すべきだろうか．〝幸せな家庭志向〟は今でもなお強固な価値観・イデオロギーとして，根強く残っているということなのだろうか．あるいは，現実が危機的な状況にあるからこそ，つまり，何らかの形で家庭の崩壊や家族の解体の危機を感じとっているからこその文字通りの「理想像」なのだろうか．もちろんそれに加えて，回答者のそれぞれが，「幸せな家庭生活」をどのようなものとしてとらえているのかという問題もある．

それに対し，「平凡な人並みの生活をする人」は親子間に有意差はあるものの（p<.01），全体の数次は意外に低かった（親22.6%，子19.6%）．日本人の〝人並み志向〟は「日本人論」の中で繰り返し指摘されてきた特性であるが，上の問題とからめて言うと，〝幸せな家庭生活を送る〟ことが〝人並み〟とみなされているということなのかもしれない．

ここでも親と子どもの間のズレに注目すると，それなりの面白い結果が出ている．子どもの方は，律儀にあるいはタテマエとして（？）「親孝行な人」を選んでいる（48.4%）のに対して，親の方は親孝行など期待していない（15.8%）．逆に，親の方はおそらくこれもタテマエの望ましい人物像として，「自分の個性や能力をあらわす人」を選んでいる（61.0%）のに対し，子どもの方はもう少し

表 － 7

子どもの将来の理想像（親PQ 3 対子どもCQ 2）

項目	親		子ども %
1	15.8	<***	48.4
2	26.6	>**	19.6
3	25.0		23.8
4	61.0	>***	42.0
5	2.2	<***	11.1
6	1.6	<***	6.5
7	12.9	<***	22.6
8	71.0		73.5

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

クールである（42.0%）．それよりも，子どもの方は「経済的に豊かな生活をする人」という現実的な答えを選ぶことを忘れない（22.6%）．親の場合はこれを選ぶ者はずっと少ない（12.9%）．（いずれも，p<.001で有意差あり）

「社会的に高い地位につく人」「家を栄えさせ家の名をあげる人」も，親子間で計算上は有意差が出てくる（p<.001）．しかし，この二つについては，むしろ絶対数の小さなことに注目したい．「家を栄えさせ家の名をあげる人」という〝時代錯誤的な〟項目は，敢えて意図的に入れておいたというところがあるが，予想通りの結果である．要するに，〝立身出世志向〟はもはや過去のものといった感があり，親の世代において極めて低いということも興味深い．（以上表－7参照）

親の場合この項目でも，他の指標で見た時の顕著な差は多くはない．有意差のあるものは，母親の方が父親に比べ，「幸せな家庭生活を送る人」（父親63.9%対母親78.0%），「自分の個性や能力をあらわすような人」（父親53.2%対母親68.8%）を選ぶ率が高いこと（p<.001，表－8参照）．子どもの性差によって，子どもが男の子の場合のほうが，「自分の個性や能力をあらわすような人」を選ぶ親が多いこと（男子65.5%対女子56.3%）である（p<.01）．（「広く社会のためにつくす人」「社会的に高い地位につく人」「経済的に豊かな生活をする人」も差は小さいが同じパターンを

表 － 8

子どもの将来の理想像（父親　対　母親） PQ 3			
項目	父　親		母　親　%
1	15.0		16.7
2	24.3		28.9
3	25.3		24.7
4	53.2	<***	68.8
5	2.5		1.9
6	2.1		1.0
7	12.4		13.4
8	63.9	<***	78.0

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 9

子どもの将来の理想像（子どもの性差） PQ 3			
項目	男　子		女　子　%
1	15.8		05.9
2	26.5		26.7
3	27.5	>*	22.4
4	65.5	>**	56.3
5	3.3	>*	1.1
6	1.8		1.3
7	15.0	>*	10.8
8	69.8		72.3

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 10

子どもの将来の理想像（学　年　差） CQ 2			
項目	小　5		中　2　%
1	52.0	>*	43.8
2	19.6		19.7
3	27.0	>*	19.7
4	36.4	<***	50.0
5	11.1		11.1
6	8.1		4.3
7	20.7		25.3
8	72.0		75.5

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 11

子どもの将来の理想像（性　　差） CQ 2			
項目	男　子		女　子　%
1	44.5		52.6
2	18.4		20.9
3	27.3		20.1
4	43.7		40.2
5	18.8	>***	3.0
6	9.8	>**	3.0
7	25.5		19.7
8	69.4	<*	77.8

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

示す．（p<.05，以上表－９参照）

それに対し，子ども自身の親合は将来の理想像に関して，学年差，性差などが出てくる．例えば，「親孝行な人」は小学生と中学生で，52.0%→43.8%と減少する．「広く社会のためにつくす人」も，27.0%→19.7%と同様な動きを示す（p<.05で有意差あり）．これは，十分に予測できる結果であり，強いて解釈を加えるなら，悪く言えば〝世間ずれ〟してくるということ，別の言い方をすれば，世の中の見方が少しばかり冷ややかで現実的になってくるということだろう．逆に，「自分の個性や能力をあらわすような人」は，小学生と中学生では，35.4%→50.5%と大きくアップする（p<.001で有意差あり，表－10参照）．ここから，自我の目覚めを想起することは容易である．

男女差の大きなものは，「社会的に高い地位につく人」（男子18.8%対女子3.0%，p<.001で有意差），「家を栄えさせ家の名をあげる人」（男子9.8%対女子3.0%，p<.01で有意差），「幸せな家庭生活を送る人」（男子69.4%対女子77.8%，p<.05で有意差，表－11参照）である．これらは，いずれも伝統的な性役割のステレオタイプと重なっており，特に目新しさのない「常識的」な結果である．

地域差のあるものはほとんどないが，強いてあげれば，「広く社会のためにつくす人」（長野市27.3%対武蔵野市19.8%，p<.05で有意差），「親孝行な人」（長野市52.0%対武蔵野市44.4%，p<.10で有意差）ぐらいである．かなり無理なこじつけの解釈をするなら，前者においては，家族の絆の相対的な強さと，理想主義的な県民性の一端がうかがわれるというところか．しかし，「家を栄えさせ家の名をあげる人」になると親の場合同様地域差は消滅してしまう（長野市6.3%対武蔵野市6.7%，親の場合はいずれも1.6%）．これは，あ

る意味では意外な結果ともいえるが，「地方都市」においてさえ，もはや「家」の存続や「家名」の保持といったことは過去のものとなりつつあるということなのだろう．

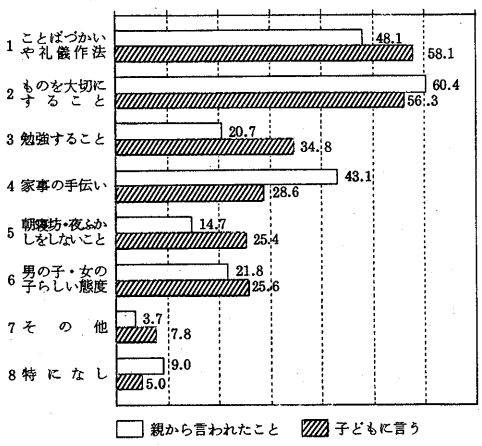
＜しつけの伝承＞

育児においては，人は結局〝自分が育てられたように子どもを育ててしまうものだ〟と言われることがある．自分が受けた「しつけ」が次の子どもの世代にどのように伝えられていくのかという，しつけの〝伝承性〟の問題を念頭に置いて，親に対して次のような質問をした．

PQ 9．次のことがらのうち，あなたが子どものころ，両親から特に厳しく言われたことはどれですか．（複数回答）

PQ10．次のことがらのうち，あなたがお子さんに厳しく言っていることはどれですか．（複数回答）

この二つの問いに対する回答の単純集計の結果を示したものが，図－1である．



図－1　親から言われたこと対子どもに言うこと（親の回答）

これだけでは，両者の相関関係を厳密にとらえたことにはならないので，しつけの〝伝承性〟などという大袈裟なことは言えないが，最低限世代によるしつけの変容の一端をつかむことはできる．少なくとも，親の世代が子どもとして受けたしつけの特徴と，自分が親として子どもに対して行っているしつけの特徴の間のおおまかな相違点は浮かび上がってくるだろう．

例えば，「ものを大切にすること」はしつけの基本的な項目の一つで，親の世代のしつけにおいても，今日の子どものしつけにおいても共通な中心的目標としてひきつがれていることがわかる．

それに対し，親の世代が子どもの時には厳しく言われたが，自分の子どもに対してはそうしていない項目として目立つのが，「家事の手伝い」（43.1％対28.6％）である．これは，別に驚くような結果ではない．かつて子どもは家事・家業の補助的労働力として重要な役割を担っていたが，現在では状況は全く変わってしまっている．「家業」の消滅「家事」の省力化の流れの中で，当然子どもの出番もなくなってくる．たとえ，家の仕事があったとしても，〝それよりも勉強しなさい！〟ということになる．

実際，「勉強すること」は，親の世代が自分が言われたよりも子どもに言っている方が大きく上回っている（20.7％対34.8％）．同じパターンを示すのが，「朝寝坊・夜ふかしをしないこと」（14.7％対25.4％），「ことばづかいや礼儀作法」（48.1％対58.1％）である．生活のスタイルやリズムが変わってくる中で，基本的な生活習慣を身につけさせることが困難になっている状況がうかがえる．また，昔だったら〝自然に〟身についた「礼儀作法」も，今日においてはかなり意識的に教え込まなければ保持できないということなのかもしれない．

さらに，PQ 9・PQ10をもう少し別の観点から見ていくと，いくつか興味深い結果が示されている．まず，親の世代において母親と父親の間に差の見られるものがある．親の世代における性差である．〝きびしく言われたこと〟で母親の方が父親を上回るもの，つまり親の世代のしつけられ方の中で，女の子に強調されたものとして，「ことばづかいや礼儀作法」（父親50.2％母親65.9％），「男の子・女の子らしい態度」（父親15.2％対母親28.5％）（いずれも，$p<.001$で有意差），「家事の

手伝い」（父親38.2%対母親47.9%，p<.01で有意差）が上ってくる．逆に父親が母親を上回る項目としては，「勉強すること」（父親30.6%対母親10.9%，p<.001で有意差）が出てくる．（以上表－12参照）

それに対し，"子どもにきびしく言っている"では，一つの項目を除いて，すべて母親が父親を上回っている．特に差の大きいものは，「ことばづかいや礼儀作法」（父親50.2%対母親65.9%），「ものを大切にすること」（父親47.7%対母親64.9%），「家事の手伝い」（父親21.7%対母親35.4%）（いずれも，p<.001で有意差あり）である．そうした中にあって，有意差を生じるまでの差ではないが，「男の子・女の子らしい態度」だけが，父親の方が母親を上回っている（父親27.2%対母親24.1%）．（以上表－13）

親の世代が厳しく言われたことには，地域差のあるものがある．「家事の手伝い」（長野市47.5%対武蔵野市37.9%）と「朝寝坊・夜ふかしをしないこと」（長野市11.6%対武蔵野市18.3%）（いずれも，p<.01で有意差あり，表－14参照）である．前者については，一概に断定はできないが，農業に代表される家業・職業の差が反映されていると考えられないこともない．

最後に，親の世代が現在子どもに向って厳しく言っていることを見ておこう．わずかな差ながら，これにも地域差が見られる．「ものを大切にする」（長野市59.7%対武蔵野市52.4%），「家事の手伝い」（長野市32.0%対武蔵野市24.6%）（いずれも，p<.05で有意差あり，表－15参照）である．これは，上に述べたこととも対応している．

親が子どもに厳しく言うことには，当然子どもの属性によって違いがある．まず，学年差のあるものを見ると次の二つが上ってくる．「ものを大切にすること」（小5・61.4%対中2・49.8%，p<.001で有為差），「勉強すること」（小5・31.0%対中2・39.7%，p<.01で有意差）．また，子どもの性別で違いが出てくるのは，「勉強すること」（男子39.4対女子29.9%，p<.01で有意差），「家事の手伝い」（男子22.6%対女子34.8%）（p<.001で有意差）である．これらはどれも目新しいことではないが，通説が一応再確認でき

表 － 12

子どものころ厳しく言われた（父親・母親）PQ 9			
項目	父 親		母 親 %
1	39.0	<***	57.1
2	61.6		59.2
3	30.0	>***	10.9
4	38.2	<**	47.9
5	13.5		15.9
6	15.2	<***	28.5

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 13

子どもに厳しく言う（父親・母親） PQ10			
項目	父 親		母 親 %
1	50.2	<***	65.9
2	47.7	<***	64.9
3	29.7	<**	39.8
4	21.7	<***	35.4
5	22.4	<*	28.5
6	27.2		24.1

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 14

子どものころ厳しく言われた（地 域 差）PQ 9			
項目	長野市		武蔵野市 %
1	46.2		50.3
2	59.7		61.2
3	20.8		0.5
4	47.5	>**	37.9
5	11.6	<**	18.3
6	20.0		23.9

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 15

子どもに厳しく言う（地 域 差） PQ10			
項目	長野市		武蔵野市 %
1	55.8		60.7
2	59.7	>*	52.4
3	35.0		34.5
4	32.0	>*	24.6
5	23.4		27.8
6	24.0		27.5

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 16

子どもに厳しく言う（子ども学年差）			PQ10
項目	小 5		中 2
1	57.5		58.9
2	61.4	>***	49.8
3	31.0	<**	39.7
4	29.9		26.9
5	25.2		25.7
6	27.6		23.1

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 17

子どもに厳しく言う（子どもの性差）			PQ10
項目	男 子		女 子 %
1	55.6		60.6
2	57.3		55.3
3	39.4	>**	29.9
4	22.6	<***	34.8
5	25.7		25.2
6	26.3		24.9

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

たと言えよう．（以上表－16，17参照）

＜しつけの重点＞

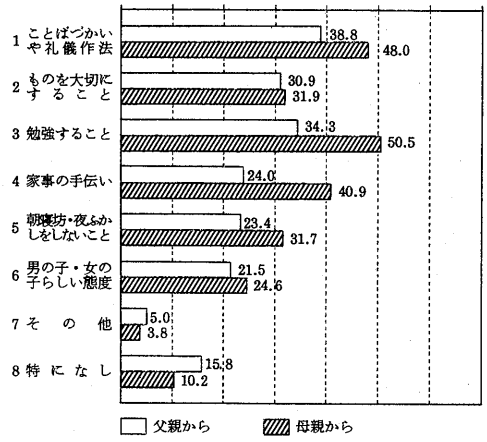
PQ 9，PQ10に対応させて，子どもの側には次の二つの質問をした．前項の「しつけの伝承性」ということで言えば，いわばそれを子どもの側から見ようとしたものである．

CQ 8．次のことがらのうち，あなたがお父さんから特にきびしく注意されるのはどれですか．（複数回答）

CQ 9．次のことがらのうち，あなたがお母さんから特にきびしく注意されるのはどれですか．（複数回答）

CQ 8，CQ 9全体の単純集計結果は図－2に示す通りである．どの項目でも，「母親から」が「父親から」を上回っている．しかし，ここではこの両者の数字の開きに特別の意味を求めてもあまり意味はないだろう．しつけの主要な担い手を改めて別の形で確認しているだけかもしれないからである．

現に，主要な「しつけ手」を開いた「PQ 11．あなたのご家庭では，お子さんのしつけは主にどなたがなさいますか」（複数回答）という問いに対しては，圧倒的多数が母親と



図－2　親からきびしく言われること（子どもの回答）

表 － 18

PQ10	きびしく言う（父親）		きびしく言う（母親）	
項目	男 子	女 子	男 子	女 子 %
1	47.1	53.4	64.1	67.8
2	48.3 >**	47.0	66.1	63.5
3	36.4 <***	22.8	42.5 <**	36.9
4	15.3	28.4	29.8	41.2
5	23.6	21.1	27.8	39.2
6	27.7	26.7	24.9	23.2

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

答えている（91.2%，ちなみに父親という答えは49.5%である）．

しつけにおいて何が特にきびしくされるかということは，当然子どもの性差や学年差が関係してくる．

女子が男子を上回るものが「ことばづかいや礼儀作法」「家事の手伝い」「男の子・女の子らしい態度」である．そして，これらはいずれも"母親から"の方が一層その差は大きい（表－19参照）．単純化してしまうと，性役割のステレオタイプを母親がせっせと再生産しているということになる．しかも，表－18を見るとわかるように，母親自身の方には，それらを特に女の子に対して強調しているという意識は薄い．意識せずにやっているのだから，なおさら始末が悪く，再生産のメカニズムは一層強固だということにもなる．逆に，「勉強すること」では男子が女子を上回って

いる．しかも，この場合には父親からの期待も大きいことがわかる（表－19参照）．勉強で頑張ることの期待は，男子において一層強いことが確認できる．

学年差のうち，小学校から中学で大きく数値の上るのが，この「勉強すること」である．特に，これは学年が上るにつれて母親からきびしく言われるようになることがよくわかる（表－20参照）．逆に，小学生に比べ中学生の方が低い値を示すのが，「ものを大切にすること」「朝寝坊・夜ふかしをしないこと」「男の子らしい態度・女の子らしい態度」である（表－20参照）．基本的な価値観や基本的な生活習慣についてのしつけは，中学生ではもはや遅すぎることであり，性役割や性意識もこの時期までにはすでに確立してしまっているということでもあろう．

ここでも，大きな地域差は見られない．「ものを大切にする」で，〝父親から〟〝母親から〟のいずれでも，長野市の方が武蔵野市を若干上回っていることがそれなりに面白い

表 － 19

	父親からきびしくCQ 8		母親からきびしくCQ	
項目	男 子	女 子	男 子	女 子 %
1	33.9 <*	44.0	40.0 <***	56.4
2	34.3	27.3	35.1	28.6
3	42.5 >***	26.5	56.7 >**	44.0
4	18.8 <**	29.5	33.5 <***	48.7
5	23.3	23.5	35.1	28.2
6	18.8	24.4	17.6 <***	32.1

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 20

	父親からきびしくCQ 8		母親からきびしくCQ 2	
項目	小 5	中 2	小 5	中 2 %
1	36.9	41.3	49.1	46.6
2	35.8 >**	24.5	38.7 >***	23.1
3	31.8	38.9	45.0 <***	57.7
4	31.7	21.2	43.5	37.5
5	26.6 >*	19.2	33.6	29.3
6	26.2 >**	15.4	30.3 >**	17.3

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

表 － 21

	父親からきびしくCQ 8		母親からきびしくCQ 9	
項目	長野市	武蔵野市	長野市	武蔵野市%
1	35.5	42.6	46.9	49.3
2	35.2 >*	26.0	36.3 >*	26.9
3	32.0	38.1	48.8	52.5
4	27.3 >*	20.0	42.2	39.5
5	21.9	25.1	30.9	32.7
6	24.6 >*	17.9	25.8	23.3

x^2検定　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

（表－21参照）．〝父親からきびしく〟で，「家事の手伝い」「男の子らしい態度・女の子らしい態度」で長野市の方がわずかに上回っているのも〝保守的な父親〟を暗示させて面白い．本稿では，調査のうちごく一部だけの紹介になったので，大袈裟なタイトルに見合うような全体像を示すことはできなかったが，しつけの現状の一端をうかがうことはできたと思う．

付　　記

1．社会化研究会の著者以外のメンバーは次の通りである。佐藤毅（代表・一橋大学），相田敏彦（駒沢大学），草津攻（津田塾大学），川浦康至（横浜市立大学），栗原孝（亜細亜大学），安川一（亜細亜大学），岡本庸子（一橋大学）．なお，データの集計処理にあたっては，川浦，岡本両氏の全面的強力を得た．また，本稿のもとになった調査は，昭和63年度文部省科学研究費補助金（総合研究A）を受けて行われたものである．

2．調査表の作成にあたって，主に参考とした調査資料は次の通りである．

① 家族問題研究会「日本の親子関係調査」（『現代家族の親子関係－しつけの社会学的分析－』，培風館，1973　所収）

② 京都大学教育学部家族研究会「家庭のしつけに関する調査」（『現代のしつけと親子関係』，川島書店，1974　所収）

③ 総理府青少年対策本部「家庭のしつけに関する調査」，1980

3．本稿での議論に対応する調査表の質問項目を

参考のため次にあげておく．

PQ２．あなたはお子さんにどういう子どもであってほしいと思いますか．（複数回答）

CQ１．あなたはどういう子どもでいたいと思いますか．（複数回答）

１．勉強がよくできる子ども
２．すなおな子ども
３．仲間に人気のある子ども
４．親の言うことをよく聞く子ども
５．礼儀（れいぎ）正しい子ども
６．勤勉（きんべん）な子ども
７．明るく元気な子ども
８．人にめいわくをかけない子ども
９．やさしい子ども
10．人にたよらず自分でやる子ども
11．そ の 他

PQ３．あなたはお子さんに将来どのような人になってほしいと思いますか．（複数回答）

CQ２．あなたは将来どのような人になりたいと思いますか．（複数回答）

１．親孝行（こうこう）な人
２．平凡（へいぼん）な人並みの生活をする人
３．広く社会のためにつくす人
４．自分の個性（こせい）や能力（のうりょく）をあらわす人
５．社会的に高い地位につく人
６．家をさかえさせ家の名をあげる人
７．経済的（けいざいてき）にゆたかな生活をする人
８．しあわせな家庭生活をおくる人
９．そ の 他

PQ９．次のことがらのうち，あなたが子どものころ，両親から特に厳しく言われたことはどれですか．（複数回答）

PQ10．次のことがらのうち，あなたがお子さんに特に厳しく言っていることはどれですか．（複数回答）

CQ８．次のことがらのうち，あなたがお父さんから特にきびしく注意されるのはどれですか．（複数回答）

CQ９．次のことがらのうち，あなたがお母さんから特にきびしく注意されるのはどれですか．（複数回答）

１．ことばづかいや礼儀作法（れいぎさほう）
２．ものを大切にすること
３．勉強すること
４．家事の手伝い
５．朝ねぼう，夜ふかしをしないこと
６．男の子らしい態度・女の子らしい態度
７．そ の 他
８．特になし